

事務事業名	森林整備協定事業	所属部	産業振興部	所属課	農林振興課
政策名	総合計画体系 (V)賑わいあふれる雲南市《産業・雇用》	所属G	森林バイオマスグループ	課長名	高野耕治
施策名	(34)林業の振興	担当者名	藤本万葉	電話番号 (内線)	0854-40-1051
基本事業名	(102)適切な保育管理	予算科目	会計 款 項 目 中事業 011 310 110 115 014		3706 森林整備協定事業

1 現状把握の部

(1)事業概要

①事業期間	②事業の内容(期間限定複数年度事業は全体像を記述)	③開始したきっかけ (いつ頃どんな経緯で開始されたのか?)
<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (16年度~) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度 ~ 年度)	雲南市の森林において水源林づくりを推進するため、下流域の市町(松江市・出雲市)と森林整備の協定を締結し、森林の植栽・整備を行う事業。	森林の公益的機能の重要性が認識され、県と下流域の自治体負担によりH14年度から事業開始。合併前は加茂町を除く5町村で実施されていた。雲南市ではH16年度より実施。

(2)トータルコスト

		単位	21年度(決算)	22年度(決算)	23年度(決算)	24年度(計画)	25年度(計画)	全体計画
①事業費の内訳(概要)	事業費内訳	国庫支出金						
		県支出金	千円	15,861	11,615	7,280	6,376	6,376
		地方債	千円					
		その他	千円	1,931	1,962	1,393	286	286
		一般財源	千円			1	2	2
	事業費計(A)	千円	17,792	13,577	8,674	6,664	6,664	
②延べ業務時間の内訳(業務の流れ等)	人件費	正規職員従事人数	人	4	4	4		
		延べ業務時間	時間	200	250	200		
		人件費計(B)	千円	763	972	788	0	0
トータルコスト(A)+(B)		千円	18,555	14,549	9,462	6,664	6,664	

(3)事務事業の手段・目的・上位目的及び対応する指標

①主な活動	23年度実績(23年度に行った主な活動)	指標名	単位	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(目標)	25年度(目標)	最終(目標)
	保育事業の委託 雪起こし、下刈り、更新伐、樹下植栽	⑤活動指標							
24年度計画(24年度に計画している主な活動)	保育事業の委託 下刈り、雪起こし	ア 事業件数	件	11	11	13	13	13	
		イ 事業面積	ha	65	43	48	48	48	

②対象(誰、何を対象にしているのか)	雲南市内の森林	指標名	単位	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(目標)	25年度(目標)	最終(目標)
		⑥対象指標							
③意図(対象がどのような状態になるのか)	下流域の市町に良質の水を多く供給するため、水を育む水源林を造成する。また同時に、市内の荒廃した人工林の整備を推進する。	ア 新規協定件数	件	1	2	1	0	0	
		イ 新規協定面積	ha	4	15	5	0	0	
④結果(どんな上位目的に結び付けるのか)	森林を適正に保全する。	ウ 整備協定面積(適正保全森林面積)	ha	107	122	127	127	127	
		⑧上位成果指標							
		ア 間伐実施面積	ha	639	442	530	590	650	

(4)事務事業の環境変化、住民意見等

①事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどうか変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?	②この事務事業に関するこれまでの改革改善の取り組み経緯	③この事務事業に対して関係者(市民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?
本事業は、事業費を県の造林補助金(9割)と下流域市町の負担金(1割)で実施してきた。県・下流域市町とも財政状況が厳しく、平成23年度からは補助率が85%に下がり事業の拡大が難しい。また、一度受光伐を実施した林分における樹幹閉塞が問題視されるようになってきている。	事業の仕様において伐採率を高め、樹下植栽の本数を減らすことで、複層林の生育の向上を図っている。	大原・飯石の両森林組合からは森林整備には有効な事業であり、また植栽を行うことから市内の林齢平準化の面からも必要性があり、事業増の要望がある。

事務事業名	森林整備協定事業	所属部	産業振興部	所属課	農林振興課
-------	----------	-----	-------	-----	-------

2 評価の部(SEE) \* 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市(町)の政策体系に結びつくか? 意図することが結果に結びついているか?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている ⇒【理由】↷ 本事業により市内の荒廃した人工林を整備することは、森林の公益的機能である水土保全及び災害防止につながるとともに、木材生産機能の強化にもつながり、山林の適正な保全に役立っている。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市(町)が行わなければならないのか? 税金を投入して、達成する目的か?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【理由】↷ 本事業の実施主体は市町村と定められており、下流域の生活環境の保全を図る本事業は上流域の自治体として下流域自治体と協力しながら積極的に実施していくべきである。また、税金を投入せず森林の適正な保全が図られ、市の施策として妥当である。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか? 意図を限定・拡充すべきか?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 適切である ⇒【理由】↷ 対象は、県が定める斐伊川水系水源の森づくり要綱により、対象が決まっている。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか? 成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか? 何が原因で成果向上が期待できないのか?	<input type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】↷ 平成13年度から平成22年度までの10年間で、斐伊川上流域で350haの協定地を計画しているが、現在の協定地は、173haである。 しかしながら、県・下流域市町の予算状況により、現状では100%の対応ができない見込みである。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【理由】↷ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】↷ 事業を廃止すれば、森林の公益的かつ多目的な機能である、水土保全・災害防止・木材生産機能が低下し適正な保全が図られなくなる。
効率性 評価	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はなにか? 類似事業との統廃合ができるか? 類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか?	<input type="checkbox"/> 他に手段がある ↷ (具体的な手段, 事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】↷ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】↷ 類似事業はない。事業を廃止すれば、森林の公益的かつ多目的な機能である、水土保全・災害防止・木材生産機能が低下し適正な保全が図られなくなる。
	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか? (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】↷ 事業費については、県の標準単価に基づき積算されており削減余地はない。
公平性 評価	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方の工夫で延べ業務時間を削減可能か? 成果を下げずに正職員以外や委託でできないか?	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】↷ 関係機関と連携し効率的な事業実施に努めているが、事業が市内各所に分散しているため、従事時間の削減は困難である
	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか? 受益者負担が公平・公正か?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】↷ 市内全域を対象にして事業を実施しており、また受益者負担はないため公平である。

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点)																							
① 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ② 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③ 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④ 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	この事業については、事業費を県の造林補助金(9割)と下流市町の負担金(1割)で行っているが、制度改正や県・下流市町の財政事業により、事業量・事業費を増やすことができない。 しかしながら、引き続き県・下流市町と協議を行いながら着実に取り組んでいきたい。																								
(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)		(4) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td rowspan="2"></td> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table> (廃止・休止の場合は記入不要)				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×		低下		×	×
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		●	×																					
	低下		×	×																					
	(5) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策 特になし。																								